

2022. 3. 7

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

ウメは全体で7分咲き ニリンソウの葉はようやく緑に

毎年3月の第一土・日に開かれるため池公園の赤塚梅まつり（板橋区町会連合会下赤塚・成増・徳丸支部など主催）ですが、新型コロナウイルスの流行が止まらないために今年も中止のやむなきに至りました。この梅まつり、この数年間は梅の花の盛りが過ぎてからの開催でした。



それだけ、ウメの開花が早かったということなのですが、しかし、今年は3/7のモニタリング時点で満開の株もあれば、まだ固い蕾のままというのもあり、全体では7分咲き程度で、数年前の状況に戻っています。今年の冬と春先は寒かったということです。（写真は城址二の丸跡の梅林）



地球を取り巻く気候大変動の現れであるエルニーニョ現象は日本列島では暖冬・冷夏をもたらし、その反動として現れるラニーニャ現象は厳冬・猛暑の夏をもたらすのですが、日本列島を取り巻く海流が変わって、今まで獲れていた海産物が不漁になるなど深刻な事態があちこちで起きています。そして、その影響はわたしたちの身の回りの植物の動きにも表れているのです。

毎年「今年のニリンソウはちゃんと咲いてくれるか？」と ハラハラドキドキしながら見つめてきた林の保護活動

↓ 2/21 のニリンソウ

↓ 3/7 のニリンソウ

2/21 のレポートでニリンソウの展葉も数年前に比べると2週間遅いとお伝えしました。そ



れから2週間経った3/7、ようやく緑の葉を広げようになってきました。



3/7 時点ではまだ自生地に一面に広がっている状態ではありません。

ニリンソウ月間の開始日(3/19)からニリンソウ観察 Day(4/3)でもまだ花は少ないかもしれません。「しれません」としか言えないのは、保護活動は天候までもコントロールできないからです。「ニリンソウを守る」とはニリンソウが生きやすい環境はほかのたくさんの植物も生きやすい環境なのだから、それを保全するということなのですが、それでさえ、近年、これまで目立たなかった野草が繁茂するようになるなどの新しい課題が出てきます。だから新しい試みにチャレンジするのですが、その結果は「自然のみぞ知る」で、やってみなければわからないことが多いのです。ましてや、天候の異変が襲ってきては、「今年のニリンソウはちゃんと咲いてくれるだろうか」とハラハラドキドキしながら林を見つめるだけなのが今頃の常。

「春一番」のヒメオドリコソウとオオイヌノフグリ 場所によって色が違う！



左の2枚の写真はいずれも「春一番」の花のオオイヌノフグリとヒメオドリコソウの揃い咲きの様子です。左は赤塚城址の車が通る道路際、右は赤塚公園中央地区のゲートボール場のそば。プリントアウトした写真では分かりにくいのです

が花色が中央地区の方が鮮やかです。空気のきれいさによって、花の色が違ってくるのかも…。

*** 赤塚公園ニリンソウを守る会は 3/13 10:00 大門観察台**

*** 3月のモニタリングは 3/14、3/21 9:00 ため池公園スタート**

今年のニリンソウ月間は 3/19 (土) ~ 4/17 (日)

期間中、月曜日のモニタリングは一般大公開の春の植物観察会 9:00 ため池公園

土・日の午前中は大門地区でニリンソウガイドあり 10:00~12:00

問合せ：赤塚公園サービスセンター 03-3938-5715